

ご挨拶

本日は竹心会本曲研究会「独り吹きのか」にご来場いただき、演奏者一同厚く御礼申し上げます。

早いもので私達の師横山勝也が亡くなって9年が経とうとしています。竹心会本曲研究会は師の「七回忌記念一人吹きのか」で徐々に顔を合わせた同門の者達が「個々に稽古を続けていく中で我流に陥ることなく、師が求め続けた尺八楽の研鑽を積めるように定期的な勉強会を持とう」ということで2017年に始まりました。

かつて師の稽古場で行われていたように、互いの演奏について自由に感想を述べあうことで「自分の演奏はどのように受け止められているのか、また他人の演奏からどれ程のことを読み取ることができているのか」を見つめる鏡としようというものです。また永年師に師事し、今日プロの演奏家として活動を続けられている方達から技術的なアドバイスを受けたり、各々の思い出話の中から師の芸の様々な側面に迫ろうとしています。

開催地の関係上、世界各地で師を慕う全ての方々にご参加いただける環境ではありませんが少しでも師の志を繋いでいくことが出来ればと願っております。尺八独奏のみという、いささかエンターテインメント性には欠ける演奏会かとは存じますが個々の奏者の一生懸命が皆様に伝わり、尺八楽の発展に少しでも寄与することができれば幸いです。

岩橋庸一(竹心会本曲研究会幹事)

プログラム

00. 響流 (横山勝也作曲)

出演者全員

独奏/柿塚香、今井祐介、眞玉和司、古屋輝夫

1986年に横山勝也先生が作曲されたこの曲を、出演者全員の息を合わせて演奏します。

01. 山越

山本 貴之

山越(鈴法)は、横山先生のCDで聴いて衝撃を受けた時から、常に吹きたい曲目の一番目にあります。

まだまだ聴き苦しい演奏ですが、教えて頂いた事を出し切れるように頑張ります。

02. 心月

岩橋 庸一

カチッと整った形式で明確な終止感と共に達成感を得やすい曲と、いつまでも音の流れの中に身を任せて揺蕩っていたいと思える作品。その時々的心境に応じて行ったり来たり。目指すは天衣無縫。

03. 産安

伊藤 奈緒子

無心 時々 有心

04. 三谷

沼倉 久仁男

この三谷の曲は横山先生に入門してから、一二三、本調の次に教えて頂いた曲です。奥州生まれの私の性格に合っているように思っておりますが??? 本曲をあまり聞いた事がない方々の前では、よく吹いております。

05. 飛鳥鈴慕

Nina Haarer

「飛鳥鈴慕」は鈴慕の作品でも珍しい短い曲です。活気と平安がひとつの情景に表現された曲で、初めて聞いた時から気に入りました。この会でこの曲を披露出来ることをうれしく思います。

06. 手向

池上直斗

はじめての古典本曲、はじめての長管、はじめての独りでの演奏、はじめての緊張感の中、精一杯演奏します。

07. 松巖軒鈴慕

土屋 雅章

東北地方伝来の曲です。故郷に戻りたくとも戻れない、寂しさと無常観に溢れた曲で、大漁歌も聞こえるように思います。

08. 虚空

増川 清一郎

本曲研究会で再三演奏しましたが納得のできる演奏ができません。再度チャレンジします。

09. 鶴の巢籠り(奥州伝)

川又 昇

「大慈大悲」の気持ちで吹いてみますが……。

10. 産安

今井 祐介

若輩者の私には大変恐れ多い曲ではありますが、横山先生が色々な想いを持たれ吹かれてこられたこの曲に対する気持ちを少しでも受け継げる様、日々努力と工夫を積んで参りたいと思っております。

————— 休憩 —————

11. 七段 鶴の巢籠り

竹内 一裕

この曲は海童道祖の音源から採譜された曲です。その音源をしっかりと聞いて、自分の感性で、ただひたすらに、ひたすらに吹こうと思います。

12. 霊慕

高橋 響

横山先生に対面で稽古して頂いた最後の曲です。一生かけて吹けとご指導いただきました。

13. 瀧落

島津 和人

伊豆修善寺に朝日を受けて輝くことから「旭滝」と言われる滝があります。その滝を眺めて黒沢琴古が作曲した曲と言われております。曲中に登場する独特のフレーズが大好きです。サー、曲途中で迷うことのないように…

14. 虚空

Chris Molina

外国語を勉強するのと同じように音楽語法を勉強できることを幸運に思います。《虚空》のような曲は、日本以外の人々も持つであろうアイデアを含んでいると思います。それは例えば、動機の発展や変奏の技法です。言語学者はいわゆる「普遍文法」に似たものを《虚空》に見出すでしょう。もしバッハやシェーンベルクがこの作品を聴いたならば、普遍的な音楽の構造を見出したに違いありません。

一方で、それぞれの言語がそうであるように、《虚空》のような作品は独自の特徴をもっています。例えば、ある作品が5つか6つのフレーズから成っていて、それぞれのフレーズがときに変化を伴って違う行き先に行き着くとき、我々は、変容の可能性が無敵大だということに気がつくでしょう。尺八奏者としての願いを申し上げますれば、私の息も無限に続けばいいのですが…。(英文からの和訳)

15. 心月

田畑 智史

古典本曲には尺八らしい旋律がたくさん含まれています。静けさの中にある音のうしろいの中に、少しでも「面白いなあ」と感じる節を見つけて帰ってもらえるように演奏したいと思います。

16. 産安

泉 武夫

地無し管でこの難曲にいどみます。人生は挑戦！

17. 鶴の巢籠り(奥州伝)

佐々木 徹

先生の平成元年邦楽花舞台出演時の手で演奏します。大反響がNHKに寄せられたと嬉しそうにおっしゃってました。5年後採譜して吹いたら、当時の手を忘れたからと譜を所望されたのも先生らしい逸話で思い出です。

18. 通里・門附・鉢返

古屋 輝夫

虚無僧が托鉢の際に奏する本曲。表題の通り三つの曲であるが続けて一曲として奏することが多い。今日の演奏は、私が集め聴いた録音の中で最も共感出来た海童道祖(わたづみどうそ)師の演奏から採譜したものである。

19. 産安

眞玉 和司

そろそろ準備しなくては、あちらでレッスン受けられない！

先生の言葉 「そちらでしっかり稽古をして、ゆっくり来なさい。」

20. 松巖軒鈴慕

柿塚 香

大学時代の先輩が花巻出身で、その御自宅の一部が松巖軒だったのです。そこに伺ったことがあり、「この辺りがお寺だった部分だよ」と聞いていました。

勝手に縁を感じている曲です。

「吹定」横山先生筆



あなたも竹心会の本曲を吹いてみませんか。

古典本曲は歴代の尺八家の、日本人の英知の結晶です。

竹心会の本曲に関心のある方は以下のサイト
をご覧ください。竹心会本曲研究会の活動や
最新情報を掲載しています。

<http://chikushinkai.cool-music.org/>



竹心会 本曲研究会 尺八演奏会

独り吹きのか

横山勝也師の歩いた道を一歩ずつ



2019年3月9日(土) 14時開演
すみだトリフォニー小ホール